

「特別研究報告資料」

○昭和61—63年度特別研究 高齢化社会における世帯形成の地域差に関する人口学的研究

第Ⅱ報告書 世帯統計資料集〔続〕(昭63. 1.20).....清水 浩昭技官
伊藤 達也技官
渡邊 吉利技官
池ノ上正子技官

○人口問題についてのおもな数字 昭和63年1月版.....人口情報部

昭和62年度人口問題研究所評議員会

人口問題研究所の昭和62年度評議員会が、小林和正（日本大学人口研究所教授）、村松稔（埼玉県立衛生短期大学長）、森岡清美（成城大学文芸学部教授）、岡崎陽一（日本大学法学部研究所教授）の各評議員ならびに研究所側から所長、部長、庶務課長が出席して、昭和63年2月24日（水）10時30分より13時まで所長室において開催された。会議の次第を示すと次のとおりである（カッコ内は説明者）。

- (1) 昭和63年度事業計画および予算案の概要について (所長 河野 稠 果)
- (2) 研究調査の実施について
 - ア. 地域人口の移動歴と移動理由に関する人口学的調査 (昭和61年度実地調査) (人口情報部長 山口 喜一)
 - イ. 第9次出産力調査(昭和62年度実地調査) (人口政策研究部長 阿藤 誠)
 - ウ. 高齢人口の移動に関する人口学的調査(昭和63年度実地調査) (人口構造研究部長 内野 澄子)
- (3) 特別研究 高齢化社会における世帯形成の地域差に関する人口学的研究 (3年計画) (人口動向研究部長 清水 浩昭)
- (4) わが国世帯数の将来推計(昭和62年10月推計)について (人口政策研究部長 阿藤 誠)
- (5) 人口問題審議会「人口と家族に関する特別委員会」について (" ")
- (6) 最近の研究所刊行物と人口に関する主要指標について (人口情報部長 山口 喜一)

応用計量経済学会第24回国際学会（人口モデル）

パリに本部をおく応用計量経済学会が主催する国際学会がイタリアのペロナで1988年2月10日から3日間にわたって開かれた。この学会は特定のテーマをとりあげて研究者の報告をテーマにそって集中させるシンポジウム方式をとっており、今回は「人口モデル」がそのテーマとしてとりあげられた。人口学のソーヴィー、経済学のパッシネティ、地理学のポーリンクといった学会の重鎮が開会の挨拶や記念講演に立ち、それに続いて8セッション約60の研究報告が行われた。参考までに各セッションのタイトルをあげると、1：一般モデル、方法論、2：雇用と人口移動、3：保健、4：年齢構造と退職、5：出産力と家族、6：結婚とライフサイクル、7：人口転換、8：経済と人口、である。本研究所からは人口構造研究部研究員 松下敬一郎が参加し、第6セッションで「結婚年齢の経済分析」と題する研究報告を行った。全体的にはやや人口学や実証のみの研究にかたよった報告が多かったが、ヨーロッパの人口学および経済人口学の研究者と親交を得る機会が与えられたことは有意義であった。

(松下敬一郎記)